

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.6



市民の皆さん、こんにちは。

当市では、去る5月15日より新型コロナウイルスワクチン接種が始まりました。市民の皆さんの不安を少しでも解消できるよう、関係機関と連携を密にし、万全の体制を整えながら、公平かつ円滑にワクチン接種を進めてまいります。

さて、先月号より各地域の伝統的な行事や芸能等をご紹介していますが、前回の市浦地区に続いて、今回は金木および五所川原地区についてご紹介します。

★地域の資源を活かした「めざすべき金木の姿」の実現

金木地区と言えば、文豪「太宰治」の生家である「斜陽館」ですが、隣接する金木観光物産館(現在休館中)が、令和4年4月のリニューアルオープンに向けて準備を進めています。新施設は、斜陽館、津軽三味線会館とともに、地域の「元気(光)」な姿を「観」ていただける「観光」エリアを形成しながらも、地元の特産品や加工品の展示即売など、地域住民のふれあいと集いの場として、金木の地域活性化の核となるよう整備し、これを機に、「めざすべき金木の姿」をぜひ実現したいと思っています。

また、金木の伝統行事としては、藩政時代から伝わる「金木町虫送り」を継承し、田植え後に五穀豊穡と無病息災を祈願する「金木さなぶり荒馬踊」、そして、金木新田の開拓期から伝わり、日本本土の北限に現存している貴重な、しかも、他に例のない動きをもつ田植踊り「嘉瀬奴踊」など、金木地区には農業者が主体となった古くから伝わる伝統芸能が数多くあります。また、歴史的遺産として挙げておきたいのが、明治から昭和にかけて金木地区はもとより津軽半島の雄大な森林資源、特に青森ヒバ等の輸送に使われ「林業遺産」にも選定された、日本初かつ日本最長の「津軽森林鉄道」があります。現在も当時の機関車が金木地区に保管(県内では3台現存)されているほか当時の橋脚やトンネル跡が残っており、大変貴重な歴史資源として知られています。

★子どもたちによる伝統芸能の継承と地域文化の創造

次に、五所川原地区についてご紹介します。約300年前から伝承され、県無形民俗文化財にも指定されている

「浅井獅子(鹿)踊」をはじめ「漆川獅子舞」「飯詰獅子舞」などの獅子舞が伝統文化として各地域に残っており、これら津軽地方の獅子舞は、3匹の獅子が雅やかな仮装をして、笛、太鼓、鉦(かね)などの囃しに合わせ、激しく跳躍するのが特徴です。「浅井獅子(鹿)踊」については、後継者不足により平成12年に活動を休止しましたが、三輪小学校の児童を中心に平成24年から活動を再開し、地域の子どもたちに伝統が受け継がれています。

そして、平成8年に約80年の時を経て復活し、今や当市のシンボルとして、当市のプロモーションに必要不可欠となった「五所川原立佞武多」です。この立佞武多を観光資源、イベントにとどめるのではなく、子どもたちにとって自分たちのふるさとの誇りとなるよう、後世に継承し、地域の伝統文化の一つとして育ててもらいたいと切に願っています。

五所川原、金木および市浦の各地区の伝統的な行事等をいくつか紹介しましたが、各地域には、その地に根差した歴史と伝統に育まれた多種多様な祭りがあり、それらに参加する人たちが「人々のつながりの大切さ」と「未来を生きる力の源」を見だし、今を有意義に生きていく糧としてきたことは、まさに長年かけて築き上げてきた知恵の源泉です。

私たちは、古(いにしえ)から受け継がれた伝統文化を地域の誇りとして大切に守り、地域の未来を担う子どもたちが、ふるさとの誇りと愛着を持てる地域社会を築くことが重要な責務です。市民の皆さんにも、五所川原市の魅力を再認識いただき、地域の豊かな未来創造のため、引き続きご支援、ご協力をお願いします。

★「職員採用WEB相談会」を開催

4月号において、当市の採用試験の方法と試験期日の見直しをお伝えしましたが、このほど、新たな試みとして「職員採用WEB相談会」を行いました。6回に分けて合計30名の参加をいただき、第6回には私も同席しましたが、若い皆さんの率直な意見や質問を聞くことができ、非常に頼もしく感じました。意欲と情熱のある若い皆さんには、ぜひ五所川原市職員を目指していただき、共に働けることを期待しています。



『金木さなぶり荒馬踊』の様子



『五所川原立佞武多(親子de立ちねぶた)』の様子